

# 医療情報部

## 1 構 成 員

	平成 24 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助手（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	2 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	4 人	

## 2 教員の異動状況

木村 通男（教 授）(H8.10.1.～現職)

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 23 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	5.88	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	8 編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	2 編	(2 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(6) その他（レター等）	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. \*M.Kimura: Heath IT in Asia-Pacific Region, Methods Inform Med, 50(4): 378-379, 2011.

【医療情報学】 [1.47]

2. \*M.Kimura, P. Croll, B. Li, C. P. Wong, S. Gogia, A. Faud, Y. S. Kwak, et.al: Survey on Medical Records and EHR in Asia-Pacific Region , Methods Inform Med, 50(4): 386-391, 2011.  
【医療情報学】 [1.47]
3. \*M.Kimura, S. Oku, R. Yamamoto: Interim Report of Healthcare Delivery after East Japan Earthquake-Tsunami Disaster –Does EHR Help?, Methods Inform Med, 50(5): 393-396, 2011.  
【医療情報学】 [1.47]

インパクトファクターの小計 [ 4.41 ]

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. Geissbuhler, M. Kimura, C. A. Kuiikowski, P. J. Murray, L. Ohno-Machado, H-A. Park, R. Haux: Confluence of Disciplines in Health Informatics: an International Perspective, Methods Inform Med, 50(6): 545-555, 2011. 【医療情報学】 [ 1.47 ]

インパクトファクターの小計 [ 1.47 ]

## (2) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 木村通男: 医療情報の過去・現在・未来—Data, Information, Intelligence 第2回現在編 第31回医療情報学連合大会, 医療情報学, 第31回医療情報学連合大会論文集 31-Suppl, 4-7, 2011.
  2. 木村通男: 臨床試験に有効な医療情報データベース, 第32回日本臨床薬理学会年会, 臨床薬理 42 Suppl, S121, 2011.
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)
1. 小林利彦, 木村通男: 1 病院内医療情報のフル活用を目指して—院内 Raw データの有効活用—, 第15回日本医療情報学会春季学術大会プログラム・抄録集, 131, 2011.
  2. 内藤恭嗣, 渋谷雅彦, 木村通男: 30 台の可搬型ハードディスクによる自然災害・ネットワーク障害対策, 平成23年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集, 52-55, 2012.
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. 服部達明, 大橋宏重, 小林利彦, 木村通男: 医療情報データベースの二次活用と臨床指標の作成, 第15回日本医療情報学会春季学術大会プログラム・抄録集, 127, 2011.
  2. 小出大介, 木村通男: 医療情報データベースを活用した医薬品等の安全対策の向上と課題(日本医療情報学会、日本薬剤疫学会、日本製薬工業協会の共同ワークショップ), 第31回医療情報学連合大会, 医療情報学, 第31回医療情報学連合大会論文集 30-Suppl, 21-22, 2011.
  3. 中島直樹, 田嶋尚子, 大江和彦, 野田光彦, 古賀龍彦, 木村通男: 「糖尿病医療の情報化に関する合同委員会」の設置と糖尿病コア項目セット策定, 第31回医療情報学連合大会,

医療情報学, 第 31 回医療情報学連合大会論文集 30-Suppl, 51-53, 2011.

4. 山本隆一, 木村通男, 秋山昌範, 矢野一博: 個人情報保護法の医療分野個別法を考える, 第 31 回医療情報学連合大会, 医情報学, 第 31 回医療情報学連合大会論文集 30-Suppl, 89-92, 2011.

### (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村通男: CD による画像連携のポイント, 月刊新医療 38(5): 98-101, 2011.
2. 木村通男: システムダウン時にも診療を継続するための電子カルテシステムの備え  
—自然災害やネットワーク障害対策, 月刊新医療 38(7): 32-35, 2011.

インパクトファクターの小計 [ 0.00 ]

### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村通男 (編集): 電子カルテ・医療情報システム部品集 2012, (株)インナービジョン, 2011.

## 4 特許等の出願状況

	平成 23 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

## 5 医学研究費取得状況

	平成 23 年度
(1) 文部科学省科学研究費	0 件 ( 0 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	4 件 (895 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 ( 0 万円)
(4) 財団助成金	0 件 ( 0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	2 件 (365 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件 ( 0 万円)

(2) 厚生労働科学研究費

木村通男 (代表者) 地域医療基盤開発推進研究事業

医療情報システムのデータを利用した臨床指標に関する研究

(H23-医療-指定-015) 500 万円 (新規)

木村通男 (分担者) 地域医療基盤開発推進研究事業

日本版 EHR を目指した地域連携電子化クリティカルパスにおける共通形式と  
疾患別項目の標準化に向けた研究 (継続)

(H22-医療-一般-008) 100 万円 (代表者: 田中博 (東京医科歯科大学))

木村通男（分担者）地域医療基盤開発推進研究事業

医療現場にとって必要な医療情報標準化の整備と利活用に関する研究（継続）

(H22-医療-一般-029) 200 万円（代表者：大江 和彦（東京大学））

木村通男（分担者）医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースを活用した薬剤疫学的手法の確立及び実証に関する研究（新規）

(H23-医薬-指定-025) 95 万円（代表者：川上純一（浜松医科大学））

(5) 受託研究または共同研究

木村通男 SS-MIX 標準化ストレージを利用した医薬品の安全性に関する試行調査  
90 万円（2011.4.1～2012.3.31）

木村通男 医療情報データベースに関するデータマッピングに関する調査研究  
275 万円（2012.1.4～2012.3.31）

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	3 件	4 件
(2) シンポジウム発表数	1 件	3 件
(3) 学会座長回数	0 件	3 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	2 件	5 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

Kimura M.: CJKMI2010 (The 12<sup>th</sup> China-Japan-Korea Medical Informatics Conference 2011),  
Shen Zhen, China, November 1, 2011, Member of Organizing Committee.

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

Kimura M.: Personal Health Records, Future Health Forum Singapore, Singapore, April 27, 2011.  
(招待講演)

Kimura M.: Standards based EHR projects in Japan, re-evaluation of past projects, INFOLAC 2011,  
Mexico, May 19, 2011. (基調講演)

Kimura M.: Secondary use of CPOE (Computerized Physician order entry) for EHR and Pharma-  
covigilance, Southeast Asia Professional Trading and Collaborative Research Workshop, Taipei, Taiwan,  
September 28, 2011. (基調講演)

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

Kimura M.: Medical Records over Disaster, Methods of Information in Medicine Symposium on Bio-

medical Informatics: Confluence of Multiple Disciplines, Heidelberg, Germany, June 10, 2011.

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

木村通男: 可搬型媒体 (CD-R) を用いた画像情報連携の現状と問題解決を考察する, 日本医療情報学会ワークショップ (可搬型媒体を用いた画像情報連携), 8月6日, 2011, 西宮市 (特別講演)

木村通男: 臨床試験に有用な医療情報データベース, 第32回日本臨床薬理学会年会, 12月12日, 2011, 浜松市. (教育講演)

木村通男: 日本の各種医療情報データベースの現状について, 第8回医薬品レギュラトリーサイエンスフォーラム, 12月12日, 2011, 東京都. (基調講演)

木村通男: 医療情報の標準化と地域医療連携システムについて, ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会, 3月10日, 2012, 静岡市 (特別講演)

3) シンポジウム発表

木村通男: 電子カルテの現状と問題点—標準化と実施レベル, 第59回日本輸血細胞治療学会総会, 4月15日, 2011, 東京都.

木村通男: 医療情報の災害対策の切り口, 第15回日本医療情報学会春季学術集会(JAMI シンポジウム 2011), プログラム抄録集, 54, 6月17日, 2011, 千葉市.

木村通男: CDによる画像連携の留意点, 第51回日本核医学会学術総会・第31回日本核医学技術学会総会学術大会, 10月28日, 2011, つくば市.

4) 座長をした学会名

木村通男: 第14回日本医療情報学会春季学術大会 (JAMI シンポジウム 2011) 6月17日~18日, 2011. 千葉市.

木村通男: 第31回医療情報学連合大会 (第12回医療情報学会学術大会), 11月21日~23日, 2011, 鹿児島市.

木村通男:平成23年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議, 1月19日, 2012. 松山市.

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

Kimura M.: Board, International Association for Medical Informatics

Kimura M.: President, Asia Pacific Association of Medical Informatics

木村通男 日本医療情報学会 会長

木村通男 日本医療情報学会中部支部会 世話人

木村通男 日本医学放射線学会 電子情報委員会委員

木村通男 日本IHE協会 副理事長、運営委員会 委員, 国際委員会 委員長

木村通男 日本HL7協会 会長, 技術委員長

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	4件

### (2) 外国の学術雑誌の編集

Methods of Information in Medicine, Schattauer, Germany, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録あり, インパクトファクター: 1.47

International Journal of medical Informatics, Elsevier, Ireland, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録あり, インパクトファクター: 2.24

Journal of Biomedical Informatics, Academic Press Inc. Elsevier Science, USA, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録あり, インパクトファクター: 1.72

Healthcare Informatics Research, The Korean Society of Medical Informatics, Korea, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録あり

### (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

6回: Methods of Information in Medicine（ドイツ）

2回: International Journal of Medical Informatics（アイルランド）

## 9 共同研究の実施状況

	平成23年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成23年度
産学共同研究	1件

1. 木村通男 標準化規格準拠の電子的医療情報データの利活用に関する研究

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の電子診療情報等の安全対策への活用に関する試行調査への参画と指導

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の電子診療情報等の安全対策への活用に関する検討会に参画しているが、その先行事業として本年度は5つの副作用に関する検索プロトコールについて、本院をはじめ、静岡県内の5病院で検索し報告した。これは、後述(2.)の厚生労働省医薬食品局の医療情報データベース基盤整備事業の先行事業である。

(木村通男)

2. 厚生労働省医薬食品局の医療情報データベース基盤整備事業への参画と指導

上述の先行試行調査で得られた知見を元に、医薬食品局では医療情報データベース基盤を用いた

薬剤安全性情報を収集する事業を平成 23 年度より開始しており、まず、その親委員会の委員に選ばれた。そして、この事業の協力機関として、全国 10 施設の一つに本院が選ばれた。来年度以降、医薬食品局からの依頼に基づき、病院情報システムの情報を用いた薬剤安全性調査が開始される。

(木村通男)

### 13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

#### 1. 臨床検索データベースの薬剤安全への応用

このテーマは先年度以前からの継続であるが、先述の独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の試行調査を通じて、病院情報システムの持つ情報の中で、信頼に足る情報種は何かを見出し、その信頼性をカルテチェックまでおこない、検証した。

### 14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

#### 1. 臨床検索データベースの薬剤安全への応用

先述 (12) の臨床検索データベースシステムを用いた独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) のプロジェクトは、5 年計画のプロジェクトとして、平成 25 年度までの継続研究となっている。また、(13) での記述の病院情報システムからの薬剤安全情報の検知については、CDISC Interchange (国際会議) において発表をおこなった。

### 15 新聞、雑誌等による報道

「院外にデータ保管の動きー災害を想定 診療録守る」, 2011 年 4 月 26 日, 中日新聞

「12 ドキュメント静岡」, 2012 年 1 月 25 日, 静岡第一テレビ